

佳作

かみのバトン

茨城県 つくばみらい市立陽光台小学校四年 田村陽

「チョキッ、チョキッ。」
お母さんと弟はうれしそうに細く束ねられたぼう
のかみを切っている。

「パサッパサッ。」
ぼくは二年半一しよだったかみがどんどん切られ
ていくのを見ながらなみだが出そうになっていた。
そもそもかみの毛をのばしたきっかけは、毎日い
ろいろなかみにしてみたいと思った。毎日結び方や
ゴムを変えてくる子がおもしろいと思ったんだ。

けれど伸ばし始めると、色んな人に、
「なぜ男なのにかみをのばしているの？」
と言われ、その度に、理かいされにくい同じ説明を
するのが面倒になっていった時、友だちがヘアドネ
ーションをしていると聞いて「すごいな。やってみ
たいな!」と思った。そんな軽い気持ちで始めたけ

正直、軽い気持ちで始めたけれど、かみをのばし
た事でたくさんの学びや出会いがあった。同じよう
にヘアドネーションをしている仲間、チャリティー
でカットしてくれる美ようしの方、カットされたか
みを一定の長さに分けて、ウィッグをせい作する会
社へとだけ、完成した物を必要な方へおくる学生さ
ん達。だれか一人でも欠けていたら、病気でかみの
毛を失った人たちに笑顔をとどける事ができなかつ
たと思った。病気を治す事はできないけれど、笑顔
になるためにかみをのばす事は、今のぼくにもでき
る。だから、ぼくはまたかみをのばそうと思う。だ
れかのためにかみのバトンをわたすために。

れど、想ぞうの千倍くらい大変だった。夏はドライ
ヤーでかわかしている時、暑くて、たえられない時
もあった。冬は寒くて、かわかすのにも時間がかか
る。かみが長くなるにつれて何度も切ってしまいた
いと思った、そんな二年半だった。

当日の朝、いつものようにかみをあらひ、きれいに
に整えてだれかにわたせる準備をした。川崎にある
ヘアドネーションのイベントには、全国からたくさ
んの人が集まる。かみを切ってもらう方だけでなく、
かみを切ってくれる美ようしの方も全員ボランティア
だ。これにはぼくもとてもおどろいた。かみだけ
でなく、カット料金もさまざまなおどろいた。活動に使わ
れる。かみを切っている間、主さいの方に始めたき
っかけをしつ問してみた。

「ほう問美ようしをしていたが、ウィッグを待ってい
る人が多いのを知って、その人たちに一秒でも早
くどどけたいと思った事がきっかけだ。」
と語っていた。同じ事を思っていたのは横浜市立大
学の学生の人たちも同様だった。ヘアドネーション
けい発イベントに参加したさい、一人でも多くの子
を笑顔にするために、ひはんやこんなにも負けな
いと、勇気にもえていて印象的だった。